



ニッセイ・インド厳選株式ファンド

追加型投信／海外／株式

足もとの運用状況について

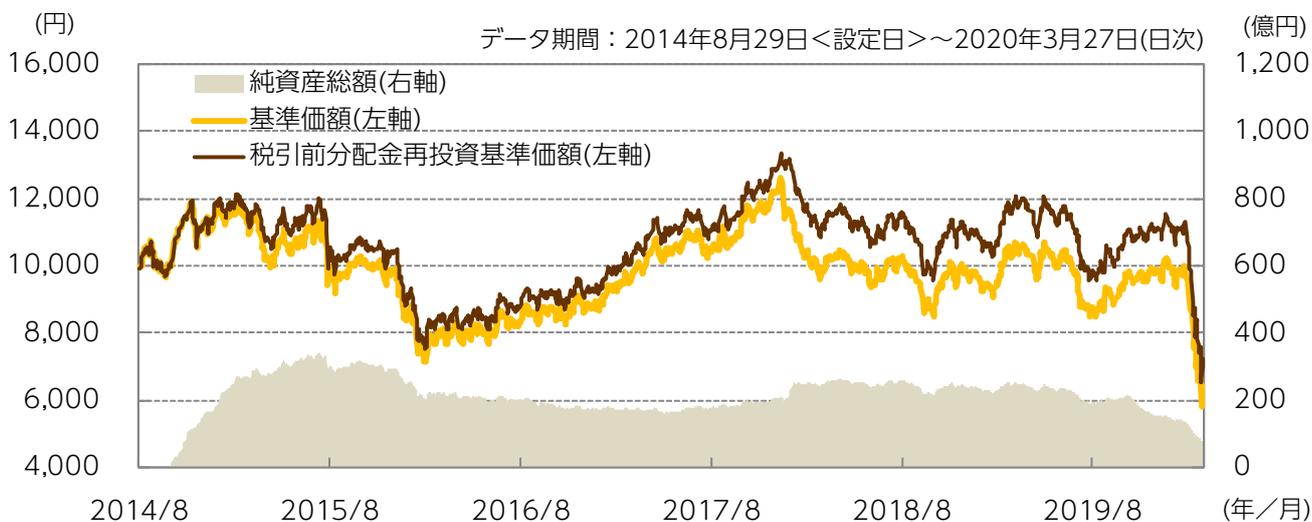
- 新型コロナウイルスの感染拡大により世界の金融市場が混乱するなか、インド株式（センセックス指数）の大幅下落を要因に、基準価額の下落が続いています。
- 当レポートでは、インド政府による新型コロナウイルス対策と、足もとの運用状況についてご説明いたします。

運用状況について(2020年3月27日現在)

当ファンドはインドの株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

2020年3月27日現在、当ファンドのトータル・リターンを示す税引前分配金再投資基準価額は、新型コロナウイルスの感染拡大により世界の金融市場が混乱するなか、インド株式の大幅下落を要因に、年初来で34.89%下落しています。

基準価額等の推移



分配の推移(1万口当り、税引前)

決算	第17期 (2018/10)	第18期 (2019/1)	第19期 (2019/4)	第20期 (2019/7)	第21期 (2019/10)	第22期 (2020/1)	設定来 累計額
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	1,400円
基準価額	8,801円	9,693円	10,596円	10,144円	9,058円	10,130円	

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

新型コロナウイルスへの対応と足もとの状況

3月23日のセンセックス指数は前週末比13.2%下落し、25,981.24ポイントで引け、一日の下落率としては1979年以降最大となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、22日に全土で日中の外出禁止令が出され、首都ニューデリー等では原則全日外出禁止となったこと、大手格付け機関が2021年度の実質GDP成長率を前回の6.5%から5.2%に引き下げたこと、米国株式市場の下落等が要因となったと考えられます。

その後インド政府は、3月25日から4月15日の3週間、全土のロックダウン(都市封鎖)を行い、生活に不可欠な業種を除く全てのサービスを停止すると発表しました。これにより、航空、ロジスティックス、小売セクター等が直接的に多大な影響を受けると考えられます。

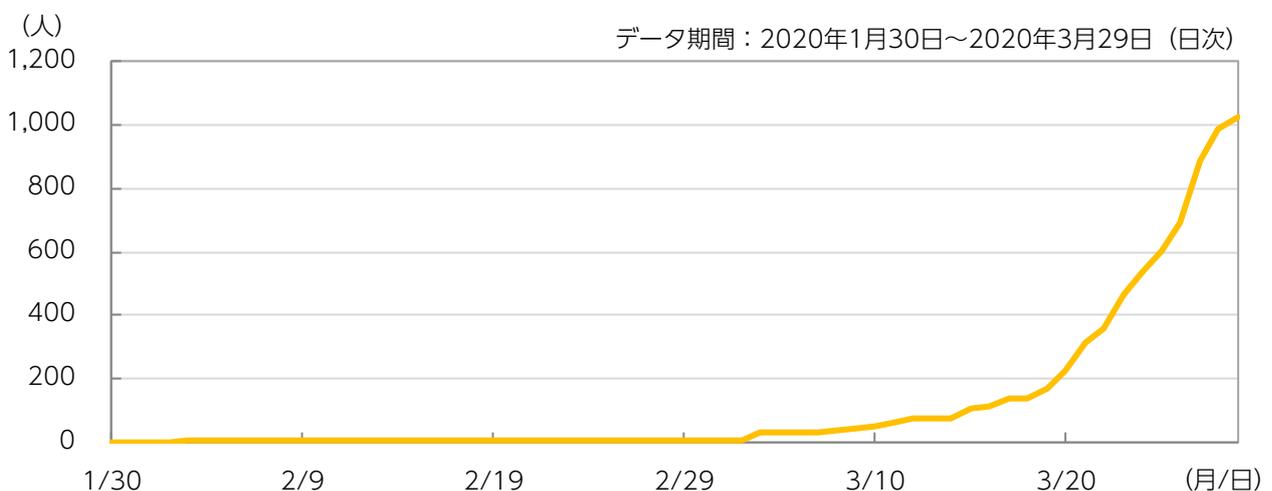
政府は26日、貧困層を中心とする1.7兆インドルピー(約2.5兆円)規模の経済対策を発表しました。続く27日には、RBI(インド準備銀行)が政策金利を0.75%引き下げ、過去最低水準となる4.40%とすることを決定するなど、政府とRBIが協調して封鎖の影響軽減に乗り出しています。

センセックス指数はこれらの対策を好感する形で24日以降は下げ止まり傾向にあります。

インド株式 株価の推移



インドの新型コロナウイルス感染者数



出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
インド株式：センセックス指数

今後の見通しと投資方針について

年初来、約40%の株価下落を受けて、バリュエーションは割安な状態となっており、株価は魅力的な水準にあるものと考えられます。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で一時的にはインドの経済成長率は鈍化するものの、翌年度以降、影響が払拭され、徐々に正常に戻るものと見込まれます。また、株価収益率は現在の13倍近傍から16-18倍に戻り、センチメント指数は、中長期的には回復していくものと見ています。

これまで大型株のウェイトを引き上げてきましたが、中小型株のバリュエーションは改善しており、足元では割安な株価水準となっているものと考えます。しかし、投資家のリスク回避志向が続くと見込まれる中で、足元の大型株のウェイトは暫く維持する方針です。

一方で、直近3、4年で相対的に低成長であった不動産ファイナンス、エンジニアリング、電気通信等のセクターは、過去堅調であったセクターが受注減や資金不足で成長が鈍化する中で、相対的に優位になってきています。このため、市場が正常に機能する状態に戻った際には早期に収支が改善すると見込んでおり、状況を見てウェイトを引き上げる方針です。

また、銘柄によりバリュエーションがまちまちな自動車、小売、商業銀行セクターについては、銘柄の見極めを行い、投資していく方針です。

当ファンドは引き続き、ニッポンライフ・インディア・アセットマネジメントからのインド株式市場に関する調査・分析等の助言を活用し、インドの株式の中から、株価上昇が期待される銘柄に厳選して投資を行います。

ファンドの特色

- ①インドの株式の中から、株価上昇が期待される銘柄に厳選して投資を行います。
 - ②ニッポンライフ・インディア・アセットマネジメント*からインド株式市場に関する調査・分析等の助言を受け、ファンドの運用に活用します。
- *2020年1月13日付でリライアンス・ニッポンライフ・アセットマネジメントから社名を変更しました。
- ③原則として為替ヘッジ*は行いません。
- * 為替ヘッジとは、為替変動による資産価値の変動を回避する取引のことをいいます。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド(マザーファンドを含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のもとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。特に、新興国の経済状況は先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があり、ファンドの資産価値が大きく減少したり、運用方針にそった運用が困難になる可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

その他の留意点

- インドの株式投資に関しては、以下の事項にご留意ください。
 - ・ファンドが実質的な投資対象とするインドの金融商品取引所で取引されている株式は、インド特有の税制により課税されます。インドの金融商品取引所において、非居住者(ファンドおよびマザーファンドも含まれます)による株式の売却益に対しキャピタル・ゲイン税等が課されるため、ファンドの換金等により大量の株式売却が生じる場合には、税負担により基準価額に大きな影響を及ぼすことがあります。
 - また、インドの株式には、外国機関投資家の上限保有比率等に制限のある銘柄があります。したがって、当該銘柄の保有比率の状況によっては、ファンドの運用に制約を受ける場合があります。
 - なお、これらの税制・制度等は、将来、変更される場合があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

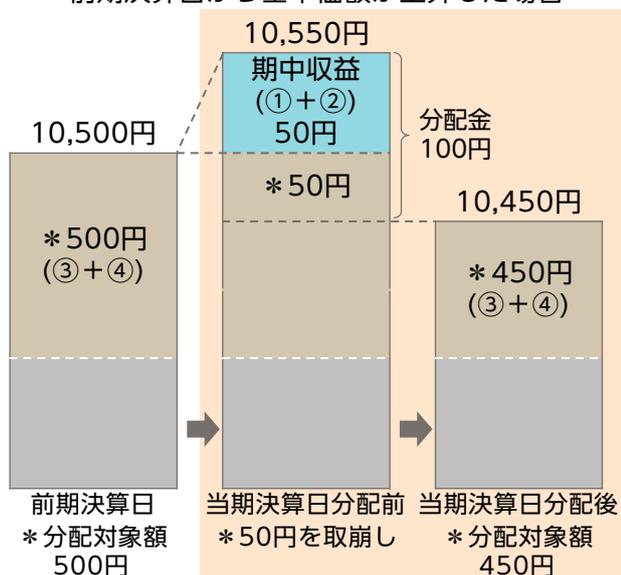
ファンドで分配金が支払われるイメージ



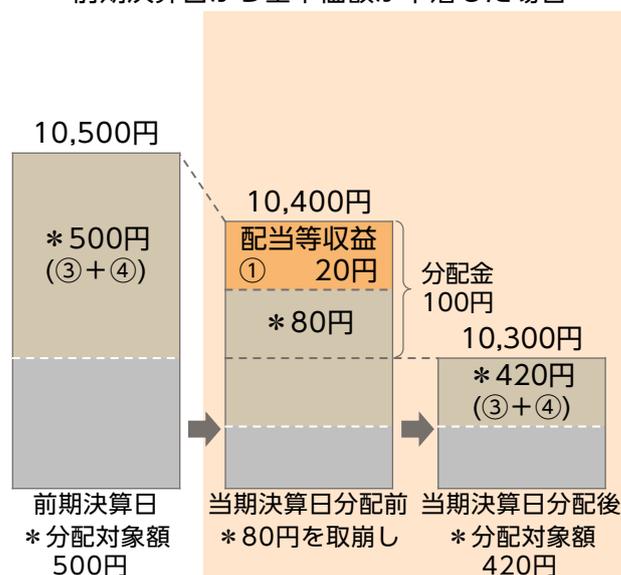
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

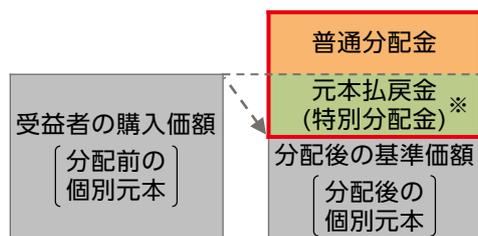


- 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益配分方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 分配準備積立金：期中収益(①および②)のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。
 収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

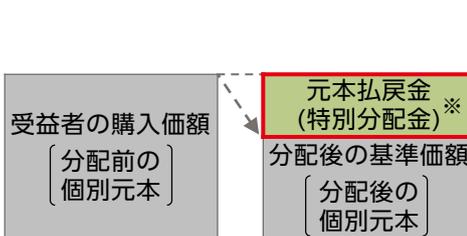
❗ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金(特別分配金)が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

- 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料 (1万口当り)	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.85%(税抜3.5%)を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ●料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率1.925%(税抜1.75%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただけます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%(税抜0.01%)をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただけます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただけます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登録番号	日本証券業 協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
今村証券株式会社	○		北陸財務局長(金商)第3号	○			
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三にいがた証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第169号	○			
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
丸三証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第167号	○			
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社但馬銀行		○	近畿財務局長(登金)第14号	○			
株式会社南都銀行		○	近畿財務局長(登金)第15号	○			

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長(金商)第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます) ホームページ：https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	